

【熊本県賞】

失う前に気づいて

熊本県 熊本市立出水中学校

三年 甲斐田 知彩

「世界一おいしい飲み物って何だと思う。」と聞くと弟はオレンジジュースと答えた。実際日本では子どもにはジュース、大人には緑茶やコーヒーが好まれがちで様々な回答がでる質問だろう。しかし、アメリカでは水が人気もおいしさもアンケートで一位になったそう。この結果はどこからきたのだろうか。

私の両親は歯科医だ。そのため、幼い頃からジュースなどの清涼飲料水や菓子類には、他の家庭より厳しいところがあった。たまにジュースを買ってもらえたときはとてもうれしく、わざわざボトリングされた水を買っていることに疑問をもったこともあった。しかし、この気持ちにも変化が訪れた。六年前の熊本地震だ。揺れがおさまった直後、父は瞬時に風呂場に向かい、蛇口をひねった。チョロチョロといつもより勢いが弱い水がでてくる。そして、その水を風呂桶にため始めたのだ。正直、当時の私は父の行動の意図がわからなかった。すぐに水は止まった。父はこれを予想し、少しでも水をためようとしたのだろう。飲み水はもちろん、トイレや洗濯など水が必要なことは多い。断水で水が手に入らず水が配給されていると聞けば、少し離れている公園でも行かなければならなかった。さらに水は意外と重い。水をタンクに入れ持ち帰るのも一苦労だ。だからこそ、三日目に水がでたときには

「あ！水がでた！」
と思わず声をだしてしまっただろうれしかった。

この地震の出来事により、我が家では水をためるようになった。町内でも井戸ができ、減災化が進んでいる。地域での助け合いを大切にしていきたいと思う。また、蛇口をひねれば綺麗でおいしい水が出てくる貴重さを再認識した。「熊本の水はおいしい。」しかし、そこには

このおいしい水を守る努力がある。このことを小学生のときから繰り返し学んできた。さらには、「熊本の水を守ろう」という発表も何度も行った。しかし、人は失って初めて大切なものに気づく。心のどこかであるのが当たり前になっていた綺麗でおいしい水。地震により水が一時的に止まったことで私は水の大切さを心の底から感じたのだ。水に恵まれている日本、水の国と呼ばれる熊本にずっと住んでいる私。水の価値を軽くみていたのではない。

世界には安全な水を飲めない人々もいる。生きるために炎天下の中、水を運び、飲んでいる子どもたちや女性がいる。水の色は茶色に濁っており、安全な水ではないのが一目瞭然だが、生きるために飲み、彼らは命の危険にさらされている。また、世界の約二百か国の中で水道水をそのまま飲む国は数える程しかない。アメリカも州によってはその一つであり、水道水をそのまま飲むのは一般的ではない。アンケート結果もアメリカの人々が水を貴重に感じているあらわれではないか。蛇口をひねれば安全な水がでてくるのが当たり前ではないのだ。ここで「当たり前」の対義語は何だろうか。正解は「有り難い」だ。

有ることが難しいからきている。こんなにも安全な水が使えることを当然ではなく貴重だということを確認し感謝することが大切なのだ。近年、熊本の水道水の水源である地下水は減少傾向にある。例える消費に生産が間に合っていない状態だ。このままでは、熊本の水を本当に失う日がやってきてしまうかもしれない。未来にこの水を受け継ぐためにも、一人一人が水を大切にしていきたい。少しでもこの取り組みが問題解決に近づくと信じて。

私は水に世界一価値のある飲み物ナンバー一の称号を贈りたい。